

平成 27 年度 学校法人 三幸学園 大阪医療秘書福祉専門学校 自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 鎌田 克也

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 杉谷 肇

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、医療福祉分野の学校として「医療現場で〇〇を通じて、日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え自ら行動することで、社会に貢献する人材」、医療福祉分野として「〇〇のこうして欲しいを理解し、考え動ける人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 27 年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 重点施策振り返り

・人間性を育むための教育

生徒の人間性を育むために、「あきらめない教育」を日々実践している。その結果、多くの就職先企業より、生徒の社会人としての基本スタンス(あいさつ・礼儀・報連相等)が向上しているという高い評価を頂いた。

・授業の質の更なる向上(検定合格率の向上)

アクティブラーニングの実践や、授業のビジュアル化の促進を行った。その結果、検定合格率は向上したが、アンケートによる授業満足度は横ばいにとどまり、今後の改善を目指す。

・変化の激しい医療・福祉分野のニーズに沿った人材育成と、学生支援

恒常的な企業訪問や、実習先からのアンケートより、企業のニーズをヒアリングして、人材育成・就職支援の為に役立てた。その結果、就職内定率が昨年より向上した。

② 学校関係者評価委員会コメント

・「あきらめない教育」をベースに、学生に対して情熱をもって指導している事は、高く評価できる。

・医療機関は、医療制度の変更が頻繁にある為、より専門性のある人材を求めている。その中で専門学校の求められる役割は非常に大きい。これからは産学連携をより強化しながら、「技能と心の調和」を持った人材を多く輩出される事を期待している。

・社会に出た時には、特に求める力は、「当たり前の事が当たり前出来る事」である。あいさつ・礼儀・掃除・気配り・目配りなどを、顧客に対してだけでなく、職員に対してできる事が大切である。大阪医療秘書福祉専門学校の卒業生は、その基礎を教えられているため、今後も学校生活で伝えてほしい。

・今後、少子高齢化の時代に向けて、人材確保は企業の重要な課題である。今回の学校評価だけでなく、企業と学校が密接に情報共有して、理念や想いなどもお互いに話し合える関係性を作りたい。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1). 教育理念・目標

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	④ 3 2 1
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	④ 3 2 1
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4 ③ 2 1
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	④ 3 2 1

① 課題

- ・生徒、保護者に対して、理念や育成人材像の更なる周知
- ・業界のニーズを踏まえた、各学科における教育目標、育成人物像の明確化

② 今後の改善方策

- ・ビジョンポスターの掲示や、ホームルームにて、理念を継続して伝えていく
- ・保護者会や、保護者への電話連絡を通して、保護者に理念を伝える場を設けていく
- ・現場への訪問を実施する際に、現場の求める人物像における、情報収集を行う

③ 特記事項

- ・教室にビジョンポスターの掲示し、目指す人物像・ミッション・ビジョンを生徒に浸透させているので、特にそのポスターに触れることを意識していく
- ・現場訪問の際に、現場の求める人物像のヒヤリングを実施しているので、集約をして明確化を行う

【委員会コメント】

- ・学校が育てるべき育成像と、現場が求める人物像は一致している
- ・少子化・採用難に備えて、業界との連携を強化し、より教育の質を高めてほしい。当たり前とされる挨拶、笑顔などを実施できるようにすることが大事

(2). 学校運営

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
目的等に沿った運営方針が策定されているか	④ 3 2 1
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	④ 3 2 1
運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4 ③ 2 1
人事、給与に関する制度は整備されているか	④ 3 2 1
教務・財務等の組織整備など意識決定システムは整備されているか	4 ③ 2 1
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4 ③ 2 1
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	④ 3 2 1
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4 ③ 2 1

① 課題

- ・情報システム化等による業務の効率化

② 今後の改善方策

- ・IT 導入などによる、情報の一元化。

③ 特記事項

- ・年 3 回の全教職員に向けて全体会議を実施し、運営方針の浸透や、教職員間の情報共有を積極的に行っている。
- ・学園全職員が一同に集う「ビジョンミーティング」にて、毎年の方針の浸透が図られている。
- ・コンプライアンス研修を行っている。

【委員会コメント】

- ・コンプライアンスに関する対策は、実施できている。
- ・学校現場でも、さらにコンプライアンスは重視していく必要がある。学生においては、SNSの活用などを通じ、コンプライアンスの重要性を伝えていくべき

(3). 教育活動

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④ 3 2 1
教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④ 3 2 1
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4 ③ 2 1
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4 ③ 2 1
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4 ③ 2 1
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	④ 3 2 1
授業評価の実施・評価体制はあるか	④ 3 2 1
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4 ③ 2 1
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	④ 3 2 1
資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④ 3 2 1
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4 ③ 2 1
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4 ③ 2 1
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4 ③ 2 1
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4 ③ 2 1

① 課題

- ・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発
- ・授業の精度の更なる向上、並びに、授業の質の均等化

② 今後の改善方策

- ・学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会からの意見の集約を行い、カリキュラムの改善を推奨していく
- ・学生による授業アンケートを活用・参考にしながら、各教員の教授力把握と改善に努めていく
- ・人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員の確保していく

③ 特記事項

- ・学生による授業アンケートについては、アンケートを各教員が受け取り、改善に努めている

【委員会コメント】

- ・学校の質を向上させる人材確保がしっかりできている。
- ・専門学校として、実践的な教育が実施できている。大学が専門化してきている中で、より教育の価値を高めるために、現場とタイアップして教育を進めて行く必要もある

(4). 学修成果

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	就職率の向上が図られているか	④	3	2
資格取得率の向上が図られているか	4	③	2	1
退学率の低減が図られているか	4	③	2	1
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	③	2	1
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4	③	2	1

① 課題

- ・退学率の低減。皆精勤率の向上
- ・資格取得率の向上

② 今後の改善方策

- ・担任会議、クラス会議などを通して、教員間で生徒情報の共有と、生徒個々へのフォローを行う
- ・教科会を恒常的に実施して、授業内の資格取得対策を更に強化する

③ 特記事項

- ・資格取得に際しては、検定weekを設け、より検定取得しやすい時間割設定を行っている

【委員会コメント】

- ・退学者防止のために、保護者と日常的に連絡を取り、未然防止を行う事が必要
- ・現場の退職防止と同じように、退学防止には学校に残るメリットを伝える事が重要である

(5). 学生支援

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4 ③ 2 1
学生相談に関する体制は整備されているか	4 ③ 2 1
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4 ③ 2 1
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4 ③ 2 1
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4 ③ 2 1
学生の生活環境への支援は行われているか	4 ③ 2 1
保護者と適切に連携しているか	④ 3 2 1
卒業生への支援体制はあるか	4 ③ 2 1
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4 ③ 2 1
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4 ③ 2 1

① 課題

- ・卒業後の有効な情報提供
- ・学生相談に関する体制

② 今後の改善方策

- ・「同窓会組織」を強化しており、同窓会専用サイトにより求人情報などの有効な情報を提供していく。
- ・生徒へのスクールカウンセラー告知を実施

③ 特記事項

- ・同窓会 link が開設し、卒業生に対しての情報発信、就職フォロー等を実施していく
- ・就職支援に関しては、担任教員と就職担当教員による、ダブルフォローアップ制度を行っている

【委員会コメント】

- ・就職支援に関しては、ダブルフォローアップ制度が、有効に機能していることは評価できる
- ・卒業後の支援については、現場で活きる研修プログラムの案内などを積極的に行ってほしい

(6). 教育環境

【評価項目】	適切:4	ほぼ適切:3	やや不適切:2	不適切:1
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	③	2	1
学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	④	3	2	1
防災に対する体制は整備されているか	4	3	②	1

① 課題

- ・定期的な防災訓練の実施

② 今後の改善方策

- ・防災訓練の定例実施や、施設・防災関連備品のチェックを行う

③ 特記事項

- ・現場実習の場を設けており、将来就職する業界で、在学中から現場経験を・積める仕組みを取っている
- ・アメリカのチルドレンズ・ホスピタルやファーマシー(薬局)と連携し、ロサンゼルスでの海外研修を行っている

【希望者のみ】

【委員会コメント】

- ・施設は綺麗で、環境も整備されている事は評価できる

(7). 学生の受入れ募集

【評価項目】	適切:4	ほぼ適切:3	やや不適切:2	不適切:1
学生募集活動は、適正に行われているか	④	3	2	1
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	④	3	2	1
学納金は妥当なものとなっているか	④	3	2	1

① 課題

- ・学科による入学者数の格差

② 今後の改善方策

- ・入試広報室との連携を取り、ニーズ調査、原因分析

③ 特記事項

- ・特になし

【委員会コメント】

- ・募集活動は適切に行われていると感じる
- ・医療機関・福祉施設は今後も人材を求めている。ぜひ多くの人材を集めて、送り出してほしい
- ・高校生以外の社会人・大学層からの受け入れも検討していく必要がある

(8). 財務

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	④	3	2
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④	3	2	1
財務について会計監査が適正に行われているか	④	3	2	1
財務情報公開の体制整備はできているか	④	3	2	1

① 課題

- ・財務情報の恒常的な公開

② 今後の改善方策

- ・ホームページ等、誰でも閲覧できる場所に、財務情報を公開できるよう設定を検討

③ 特記事項

- ・特になし

【委員会コメント】

- ・安定した経営を行っていると評価する。

(9). 法令等の遵守

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④ 3 2 1
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	④ 3 2 1
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	④ 3 2 1
自己評価結果を公開しているか	④ 3 2 1

① 課題

・特になし

② 今後の改善方策

・特になし

③ 特記事項

・特になし

【委員会コメント】

・自己評価結果を H27 年度より、適切に公表を行っている

(10). 社会貢献・地域貢献

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4 ③ 2 1
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4 3 ② 1
地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	4 ③ 2 1

① 課題

・生徒にボランティア活動の奨励・斡旋・支援

② 今後の改善方策

・地域の医療機関、介護施設と連携し、ボランティア活動を計画・実施していく

③ 特記事項

・特になし

【委員会コメント】

・医療機関や福祉施設は、ボランティアを積極的に受け入れている

・ボランティアを啓発して、地域連携、産学連携をしてほしい

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

自己評価結果については、妥当であると評価された。

就職先企業・関連企業・卒業生から、大阪医療秘書福祉専門学校の運営や学生支援・企業との取り組みなどを検証して頂いたが、適正である事が評価して頂いた。

学校関係者評価委員会では、特に下記の点について特に良い評価を頂いた。

- ・生徒、教職員全体に対して、理念や育成像を浸透するための施策がしっかりとされている。
- ・教育の質を上げるための新しい取り組みが行われている。(アクティブラーニング・教員評価等)
- ・学生と教員の距離が近く、学生の支援体制が十分にされている。
- ・少子化の中で、学生募集を適正に行っており、企業への適切な人材供給が行われている。

また、啓発点としては、下記のとおりのご指導を頂いた。

- ・地域との連携強化。ボランティアや地域活動を積極的に行う。
- ・企業との連携強化。企業の方に、授業や就職講話などに入り、より実践的なアドバイスを頂く。
- ・保護者との連携強化。保護者の方に、生徒情報の共有や、行事に参加頂き、信頼関係を構築する。

上記について、啓発点を改善し、今後も、業界の困難を希望に変えられるように、大阪医療秘書福祉専門学校の教職員全体で、生徒・社会へのサポートを行っていきたいと思う